

# 第4号議案

## 県営農業競争力強化基盤整備事業

せらだ おおたし せらだまち

世良田地区 太田市世良田町

着工年度

平成19年度

評価理由

10年継続

### 1. 事業の目的

太田市世良田地域は、米麦やゴボウを主体とした経営規模拡大を望む意欲ある担い手農家が多い。しかし、本地区の農地は、小区画・不整形、農道の幅員も狭く、排水路も未整備であるため、生産効率の向上と農地の利用集積の障害となっている。

そのため、本事業により区画整理、農道整備、用排水路整備等の農業生産基盤整備を実施し、生産効率を向上させるとともに、担い手農家への農地利用集積を促進(現況:19% 目標:55%へ)させ、持続可能な地域農業の生産環境を整えることを目的としている。

群馬県内位置図



小区画・不整形、農道未整備状況(整備前)



狭小、屈曲した農道(整備前)

### 2. 事業概要と進捗状況

#### 事業概要

事業場所	おおたし せらだまち かすかわまち いでづかまち 太田市世良田町、粕川町、出塚町	
区分	今回	事業当初
全体事業費	1,303百万円	1,136百万円
全体事業費増減の理由	物価変動による事業費増	
事業期間	H19~H30	H19~H24
事業内容	区画整理 69.6ha	区画整理 69.6ha

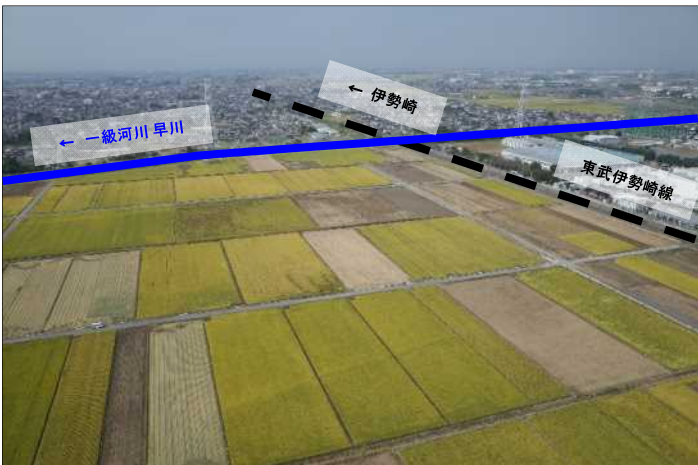
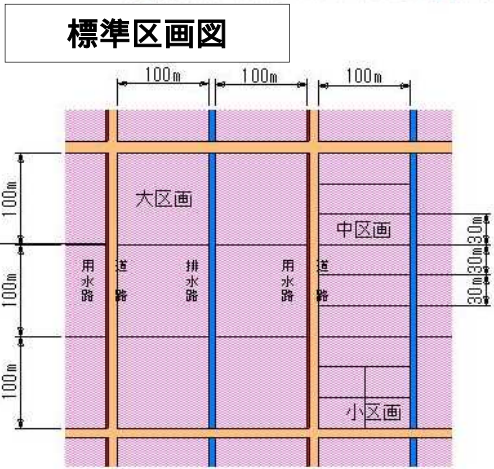
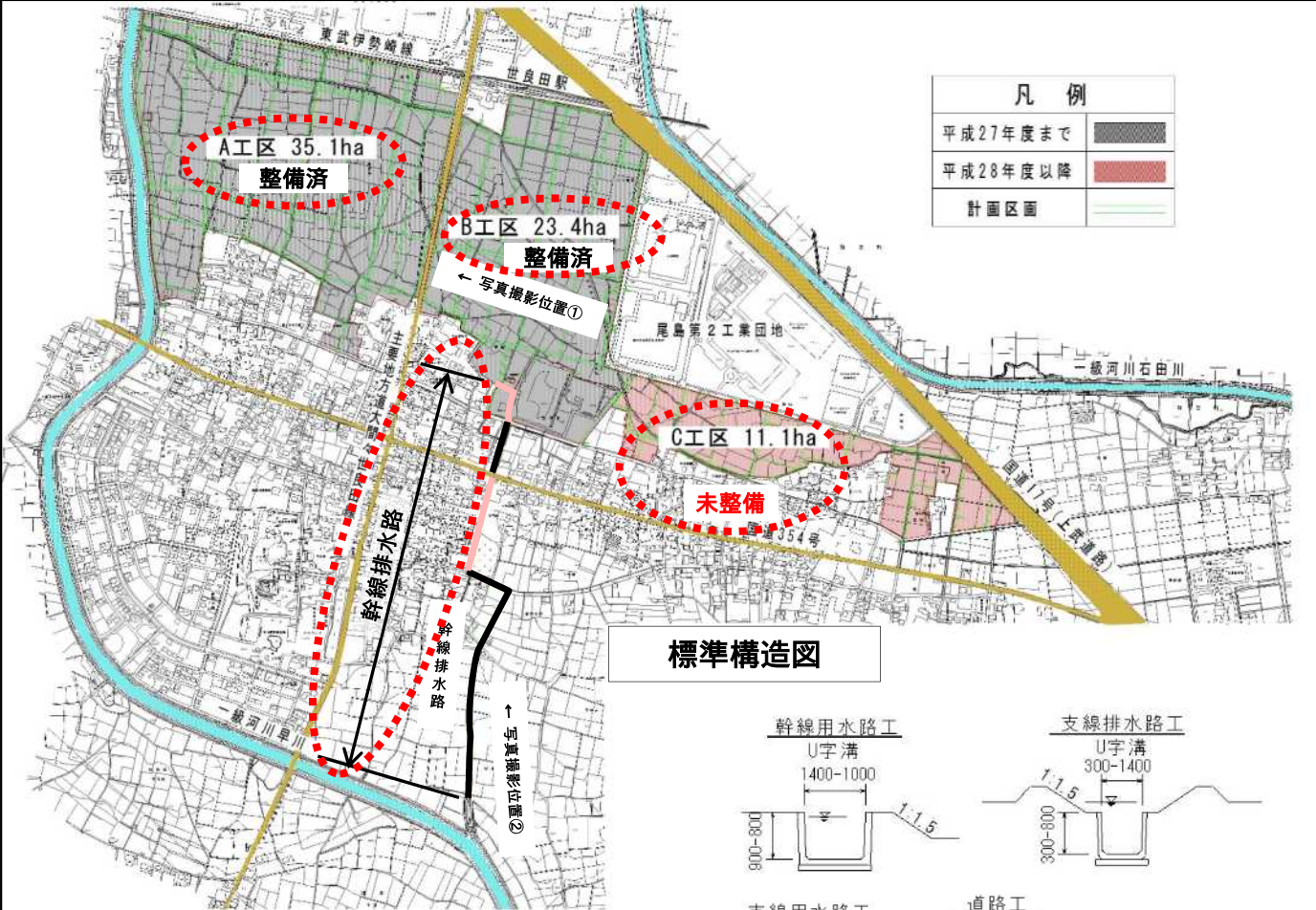
#### 事業経緯

年度	主な経緯
H19	事業採択
H23	全体実施設計
H25	工事着手
H26	A工区 35.1ha完了
H27	B工区 23.4ha完了

#### 進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況(進捗率)
事業費	1,303百万円	889百万円 (68.2%)
計画面積	69.6ha	58.5ha (84.1%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



区画整理 (A工区整備後)



幹線排水路 (整備後)

### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・現状の農業生産基盤条件のままでは、非効率な農業経営を余儀なくされるばかりか、将来的には休耕地が耕作放棄地になるおそれがあり、整備の必要性はさらに高まっている。
- ・また、整備済みの農地では、水稻、ゴボウが栽培されるなど、事業効果が発現しており、事業の目的及び必要性に変化はない。



小区画・不整形な農地での営農状況(整備前)



ゴボウ作付け状況(整備後)

### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- ・農業生産基盤の整備と担い手農家への農地利用集積が促進される農地の区画整理を実施することが最適な手段である。
- ・整備済みの農地では担い手農家への農地利用集積が進み、経営規模拡大が図られたことによる大型機械を使用した効率的な農業経営が行われ、十分な事業効果が確認されている。
- ・工事用仮設道路において、他部で実施している下水道工事の管路埋設時に発生する路盤材を仮設資材として再利用するなど、他事業とも協調し、コスト縮減に取り組んでいる。



農地の大区画化(整備後)



大型機械の導入(整備後)

#### 費用便益分析

		前回評価時		今回再評価時		備考 便益説明
算出根拠マニュアル		土地改良の経済効果(H9)		土地改良の経済効果(H9)		
基準年		平成18年度		平成27年度		
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比	
費用 (千円)	工事費	1,101,000	100.0%	1,343,926	100.0%	
	維持管理費	0	0.0%	0	0.0%	
費用合計(C)		1,101,000		1,343,926		
便益 (千円)	本来的効果	1,521,968	86.5%	1,350,796	95.5%	営農経費等の単価更新による効果額の減少
	派生的効果	238,052	13.5%	63,417	4.5%	文化財調査面積の減少により調査費減。本事業により文化財が保護され後世に継承される効果も比例して減少。
	その他効果	0	0.0%	0	0.0%	
便益合計(B)		1,760,020		1,414,213		
費用対効果分析(B/C)		1.59		1.05		

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化 】

- ・平成19年度の事業採択後、太田市より既存工業団地の拡張に伴う本地区内での新たな非農用地創設の申し出があったことから、事業着手を中止し、事業計画の変更について、県・市・地元関係者により、協議・検討を行った。しかし、諸般の状況の変化もあり、非農用地創設計画が白紙となり、このことから平成23年度に当初計画で事業が再開した。
- ・本事業は農林水産省の国庫補助事業により実施しており、年度事業費について、平成26年度、平成27年度と国の割当額が要望額を大幅に下回ったため、事業進捗に遅れが生じているが、平成27年度までに約84%の区画整理が完了し、平成30年に事業完了する見通しが立っている。



非農用地創設検討位置図



非農用地創設検討状況写真

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

事業計画の変更

スケジュールの変更

・本事業は、区画整理、農道整備、用排水路整備等の農業生産基盤整備を実施し、生産効率を向上させるとともに、担い手農家への農地利用集積を促進させ、持続可能な地域農業の生産環境を整えるための事業である。

・新たな非農用地創設の申し出及びその協議・検討に不測の日数を要し、事業着手に4年の遅れが生じたが、平成27年度までに約84%の区画整理が完了し、現在、最終工区に工事着手したところである。

平成30年度までに事業完了の見通しが立ち、整備済みの農地では、担い手農家の経営規模拡大による大型機械を利用した農作業の効率化が図られ十分な事業効果が確認されている。

・世良田地区は、農業の生産性向上と農地集積を促進させる観点から、事業の必要性、重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切であり、事業継続は妥当である。